

発行  
代表  
青木和子  
松本市教育委員会  
TEL 047-311-0886  
104-416

# おし図書館

No. 172

### 第三回

## 松本市図書館整備計画

### 審議会(以下審議会)

報告 青木和子

10月16日(木)午後7時~9時、松本市教育委員会会議室(京葉がスビル5階)で開催され、7名が傍聴しました。(定員10名)

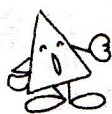
まず、11月15日(土)午後1時30分から市民会館301号室で開催される「図書館シンポジウム」私たちの図書館の未来を考えるしについて、事務局からの案内がありました。  
主催は松本市教育委員会(社会教育課・図書館)

基調講演は、当初予定していた常世田良審議会委員長から大串夏身副委員長に変更。

シンポジウムは、審議会委員の方々によるパネル・ディスカッション。

定員は10名で、申込みは電話で図書館まで。

情報化、国際化、少子高齢化という社会情勢の中、図書館の役割は益々重要になっていきます。このような状況下で、今後の松戸の図書館の在り方を市民と共に考えたいとのことでした。



第三回審議会の検討項目は次の通りです。

1. 職員の資質向上について  
図書館サービスの向上のため  
の図書館職員の人材育成を  
図ること。
2. 市民向け講座について  
市民の課題解決を支援するた  
め、暮らしに役立つ講座を  
実施すること、また図書館に  
対する関心を高める講座を  
実施すること
3. 学校連携について  
子ども読書活動及び学習活  
動を支援するため、学校と  
互に連携・協力すること
4. 市民との協働について  
市民との協働を推進するため、  
広く情報提供すること
5. 施設の改善および蔵書の充実  
について  
市民の課題解決を支援するた

めに必要な蔵書を確保し、また市民が利用しやすく、図書館の良さを感じることで、る施設にするための改善を図ること

6.その他  
市民の課題解決支援のため、必要なサービスを提供すること

●短期的課題について  
1.専門職の再研修（ステップアップ、再教育）  
外部講師による職員研修  
本館・分館職員のスキルアップ研修（レファレンス、接遇等）  
専門職の養成（司書資格取得）

2.図書館を使った調べ学習講座の開催  
図書館に関心を持つような講座の開催  
家庭教育学級等を活用した講座の開催

3.図書館と松戸市の特色となる教育を組み合わせる事業  
学校と公共図書館の物流連携  
学校と公共図書館を取り持つ  
コーディネートターの配置  
公共図書館と学校図書館のシステム連携  
学校図書館司書の配置  
4.図書館HPに情報提供  
5.本館1階を改修した施設の上夫  
本館のリニューアル  
書庫の確保および蔵書の充実  
6.働き盛りの市民のためのサービス（ビジネス支援）

●審議会提言の基本方針についての意見（短期的提言）  
◎全体像  
・松戸でない出来なような図書館のあり方を、一つは示すべき、  
・松戸で何が必要とされているのかを促えることが必要  
・松戸の図書館は情報提供型、

地域の課題を解決するようなタイプを目指すべき（ビジネス支援・医療健康情報提供・新病院との連携）  
・自己判断自己責任型の社会に移行しつつある中、判断の材料になる情報を提供する図書館  
時代の新しい動きを図書館が提供して、触発していくイニキュベーション（孵化）機能を持つ図書館  
新しいタイプの図書館は、時代の新しい息吹を市民に提供し、そのことにより、町づくりをしていくというような役割がある。

◎地域コミュニティとの関わり  
・地域社会の中に新しいグループができ、人のつながりが生まれ、地域社会の提言がでてくるような図書館の創造  
・地域コミュニティを再生・再編する場所としての図書館を目指すべき、そういう場所づく

リ・まちづくりを、人を通して  
行う

・住民が色々なテーマで語り合い、  
その中で人と人とのつながりを  
生み出し、地域の中でのつながり  
になっていく図書館

・滞在型の図書館であるけれど、  
単に静かに本を読むということ  
ではなく、新しい地域社会をつ  
くるための人と人がつながれ  
る場所

・地域のために役立つ図書館が必  
要である(地域の課題を具体的  
に考える)

◎空間

・本を借りる風景、本を探してい  
る風景というものが街の中に出  
てくるということは、とても大  
事なこと

・図書館っていい場所なのだとい  
うことを知らしめるためには、  
滞在してもらい、空間の良さ、  
視覚的なものを感じてもらおう

・図書館の情報を仲立ちにして  
人と人とのつながりができる  
空間を建築的に考える

・図書館に必要なものは情報と  
空間の二つがあり、人生を切  
り開く多様な情報、空間とし  
て市民が出会う場所を物理的  
に保証することが必要

◎人

・各年代に応じた図書館に来て  
もらう戦略の構築(特に働き、  
盛りの市民)

・読書を活かして、子どもや人  
を育成するスタイルの確立  
イベントの開催(親子レクの  
活用等)

・中・高生ボランティアの受け  
入れ



審議会討議抄録

報告 塩崎俊一

I. 11月15日実施の「図書館シンポ  
ジウム」について

・基調講演者変更・常世田委員長  
から大串副委員長へ

・図書館の未来について、市民と  
一緒に考える会にしたい

II. 短期的課題についての討議

・本整備計画予算は、教育委員会  
から(11月に予算要求し、くり  
返し声を上げる必要あり)

・特に施設予算は、市民の目に見  
える形にすることが大事なポイ  
ントで、効果が期待できる

・職員研修を急ぐことが急務  
司書資格を有する職員の研修も  
必要

・公共図書館と学校図書館の連携  
を図り、学校図書館に各一人の  
コーディネーター常置を要望し  
たい

- 分館の在り方見直しによるリーチ↓市民センター来館者とのつながりや親和性の向上を図る図書館内配置の分析をして、スペースを作る知恵が必要↓それによって、書庫の確保・地域の人のやすらぎ場所にもなり得る
  - 図書館はこういふものだという思い込みが、管理運営側にも利用者側にもあるのではないか
  - 分館が多いのは良い事だ↓小さい子ども時代から読み聞かせの可能性を増やすべき
  - 水戸街道沿いの町としての資料充実が必要 その上で博物館との連携は不可欠↓MLA(博物館・図書館・文書館)連携論にも通じる
  - 近隣地域(野田・流山など)との関連資料や松戸を知る資料が意外と少ないとの声がある
- Ⅲ基本方針についての提言
- ・学習権(ユネスコが)に設定し

- だが、日本は批准せずの観点から、自立する市民を育てよう
- ・学校図書館と公共図書館で、公教育を完成させるべき
  - ・海外の大学で流行している自学自習(ラーニング・コミュニティ)は、インキュベーション(孵化、人材育成)が目的
  - ・図書館に来られない人にも福祉的視点から図書提供の義務があるのではないか
  - ・どんな人でも受け入れられる器が図書館↓利用者にアドバースやサポートができるヤング・アダルト・アドバイザーのような存在が必要
  - ・学習室と閲覧室との境界には仕切りの壁などを使わず、ゆるくしたい
  - ・現在、公共施設の利用にあたって、市民団体同士の取り合いいなっている図書館にも

会議室が必要なのではないかとオープン・スペースを、必要に応じて仕切ればよいのではないかと図書館は、公共空間であることに加え情報入手が出来、外の世界につながっている

Ⅳ傍聴感想

今回の傍聴には7人の参加だったが、討議・提言の内容が濃く、色々な角度・分野からの声が出て、知見的には至福のトキを過ごせた。

海外や国内の事例の具体の中に課題解決のチエが含まれている様だ

MLA連携も、行政側のテーマとして検討急務だ

今日の印象に残った言葉↓「図書館は、大人の大学である」

